

# 私の挑戦

▶ 256 ◀

相模原市 遠藤 晴之さん

相模原市南区当麻地区で、酪農を営む遠藤晴之さん（49）。神奈川県立中央農業高等学校を卒業後、静岡県の牧場で1年間実践研修を学び、家業を継いだ。就農して30年目となる。

妻の由佳さん（42）と共に日々、酪農業に励みながら相模原市農協酪農組合の組合長も務める。

組合の組合長も務める。自宅敷地内に牛舎を構え、ホルスタインの育成

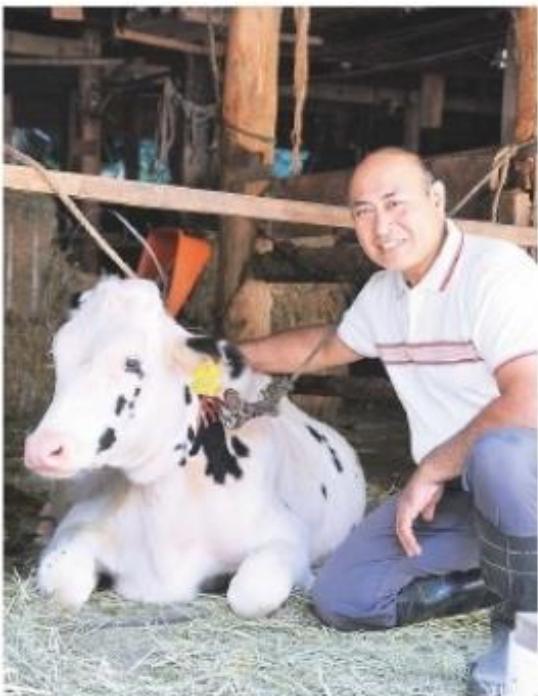
牛と成牛合わせ約40頭を飼育。1日の搾乳量は700～800kg。メグミルク海老名工場へ出荷している。

乳牛を飼育する上で心がけていることは「病気になさせないこと」。常に

牛の体調に変化がないか観察し、おかしいなど感じた初期段階で獣医師に見せるなど重症化しないよう細心の注意を払う。

## 地域に根付く酪農を

（相模原）



子牛と遠藤さん

て牛舎の屋根から流し、暑さ対策を行うなど愛情を込めた成育に励む。

夫婦で早朝から夜遅くまで牛舎の掃除や餌やり、搾乳の他、水稻、畑作業を行う。

「はるみ」やブランド米「ハクサイ」など少量多品目の季節野菜を年間60種類ほど栽培。いずれの圃場（ほじょう）でも牛ふん堆肥を活用し、循環型

農業に取り組んでいる。遠藤さんは「飼料価格高騰などで酪農家の軒数も年々減っている。経営が厳しい状況が続いているが、地域に密着した酪農を目指し長く続けていきたい」と話している。

自給飼料としてソルゴーの栽培や、夏には敷地内に流れる川の水を引

きたい」と話している。